

会 議 録

1 会議名

平成29年度第1回上越休日・夜間診療所運営委員会

2 協議事項等（公開・非公開の別）

(1) 平成28年度休日・夜間診療所運営実績について（公開）

- ・運営実績について
- ・二次救急病院自主来院救急患者数について

(2) 平成29年度休日・夜間診療所運営状況について（公開）

- ・運営状況について
- ・平成29年度医療器械の整備について

(3) 休日・夜間診療所の今後の方向性について（非公開）

3 開催日時

平成29年8月23日（水）午後7時00分から午後8時00分

4 開催場所

上越市役所4階 402・403会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

上越市審議会等の会議の公開に関する条例第7条第1項第4号「意思形成過程事項」に該当するため

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員 早津正文、渡辺雅晴、籠島充、長谷川正樹、小池宏、石橋敏光、園田裕久、小林亨、折笠正勝
- ・事務局 畠山牧男管理者
上越市八木健康福祉部長、小林地域医療推進室長、森田副室長、池田係長、相沢主事
妙高市見波健康保険課長、阿部係長

8 発言の内容（要旨）

- (1) 八木健康福祉部長挨拶
- (2) 早津委員長挨拶
- (3) 協議事項等

ア 平成28年度休日・夜間診療所運営実績について（公開）

【早津委員長】

協議事項(1)の「平成28年度休日・夜間診療所運営実績について」事務局に説明を求める。

【小林室長】

患者数は昨年度比603人増の10,781人であった。主な要因は、インフルエンザ患者数が増加したことによるものと考えられる。

前回の運営委員会で指摘を受けた 21 時以降の患者数については、29 年度からデータを取っているため、次回の運営委員会で中間報告をしたいと思う。

二次救急病院等への転送患者、及び二次救急病院等の経由患者については、いずれも減少した。適切な医療機関への受診が進んでいると考えられる。

地区別の利用状況では、休日・夜間診療所がある春日区が一番多く、次いで近くの有田区、金谷区が多い。これは今までと同じ傾向である。

年齢別患者数では、1～15 歳と 16～59 歳が多いが、この傾向がどう変わるかはもう少しデータが蓄積されてからお示ししたい。

収支状況（見込み）では、患者数の増加もあり、歳入から歳出を差し引き 11,073,226 円と昨年度比 4,736,404 円の増額となった。これは二次救急病院に対する補助金に充当させていただいている。

休日・夜間診療所への電話による照会件数は、昨年度比 460 件減の 4,817 件となった。照会件数は年々減少傾向にあり、その要因としては、新潟県で実施している「小児救急医療電話相談」の普及が考えられる。電話相談事業は平成 17 年から実施しており、26 年度から順次受付時間を拡充し、年々相談件数は増加傾向にある（上越地域では、26 年度 92 件、27 年度 297 件、28 年度 808 件）。電話相談が一旦窓口となり、症状に応じた休日・夜間診療所と二次救急病院等への振り分けがなされた結果、休日・夜間診療所への電話照会件数が減少しているのではないかと考えている。

休日・夜間診療所の周知及び適正受診等の啓発活動としては、28 年度から新たに電子母子手帳に掲載した。

二次救急病院の時間外開始時刻から 21 時 30 分までにおける自主来院救急患者数では、全体として減少傾向にある。休日・夜間診療所の周知が進んできている結果と考えている。

【早津委員長】

委員に質疑を求める。

【長谷川委員】

休日・夜間診療所には多くの患者が来ており、その患者が病院に直に来られると大変だと思うので、休日・夜間診療所は非常に役に立っていると感じるが、夜間に県立中央病院に来る救急患者はそれほど減っている感じはしない。だが実際には減っているということであり、認識を改めなければならない。

【小池委員】

労災病院は今、救急外来はほぼ整形外科に限られており、救急搬送は少ない。電話で問合せがあった場合は事情を説明し、他の病院に行ってもらっている。

【早津委員長】

けいなん病院は患者数が多いが、頸南地区からは休日・夜間診療所には行かないで、けいなん病院に行っているのではないか。

【小林室長】

資料 1-3 のとおり、妙高市から休日・夜間診療所に来る患者は 28 年度実績が 415 人で、割合としても 5%である。やはり遠くなると来づらく、けいなん病院に若干流れている可能性がある。

【見波課長】

けいなん総合病院は救急告知病院ということで妙高市報や上越タイムス等で周知をしている。
やはり妙高市民は、けいなん総合病院を受ける傾向にあると考えている。

イ 平成29年度休日・夜間診療所運営状況について（公開）

【早津委員長】

協議事項(2)の「平成29年度休日・夜間診療所運営状況について」事務局に説明を求める。

【小林室長】

4月～7月の患者数については、昨年が3,403人、今年が3,296人で大きな変化はない。

今年度、医療器械については薬剤分包機と調剤監査システムを導入済みである。

新規導入に協議が必要な医療器械として、前回の運営委員会で意見があった「超音波診断装置」について、上越医師会で実施したアンケート調査の結果（導入を希望しないが58%）を配布した。
医師会会長の早津委員長から補足説明があればお願いしたい。

アンケート調査で要望のあった耳鏡については今年度購入する。トイレの便座が冷たいという意見については、来年度に向けて検討する。

【早津委員長】

超音波診断装置については、希望しないという意見が多いため、医師会としては導入を要望しないと結論づけた。

【早津委員長】

委員に質疑を求める。

（意見なし）

ウ 休日・夜間診療所の今後の方向性について（非公開）

(4) 閉会

9 問い合わせ先

健康福祉部 健康づくり推進課 地域医療推進室 TEL 025-526-5111（内線1557）

E-mail:chiikiiryousu@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。